

# 2025年度（令和7年度） 健生ナーサリー 施設自己評価

実施月：2026年3月

No.	評価項目	スコア	重要度	所見・取り組み状況
1	<b>基本的理念と保育方針</b>	2.33	高	<p>保育理念に基づき、子どもの人権を尊重した保育が実践されています。今後は、固定的な観念（性差など）を排除した関わりや、子どもの主体性をさらに引き出す環境構成について、職員間の共通認識を深める研修を実施していきます。</p>
1 - 1	施設として子どもの人権に十分配慮するとともに、健生の保育理念/目標/方針を目指した保育が行われている	3	高	
1 - 2	先入観による固定的な観念を植え付けない保育が行われている	2	高	
1 - 3	施設として子どもの主体的な活動を促し、意欲を持って活動できるような保育/援助ができています 	2	高	
2	<b>保育のねらい・計画・評価</b>	2.5	高	<p>各年齢の発達状況に応じた指導計画の作成は適切に行われています。課題として、就学を見据えた「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の具体的なイメージ共有や、振り返り（評価）に基づくディスカッションの時間を強化し、計画の精度向上を図ります。</p>
2 - 1	子どもの発達の過程、特徴を理解し、保育方針や月のねらいに即した保育/援助ができています	3	高	
2 - 2	職員が入園から就学（卒園）までの発達の連続性、保育指針にある「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」をイメージ・理解して保育が提供できている	2	中	
2 - 3	保育目標やねらいを基に、各年齢の子どもの発達状況に配慮した指導計画を作成している	3	高	
2 - 4	職員へ保育/指導計画の共有が行われ、具体的な計画・実行・振り返りについてディスカッションできる場がある	2	高	
3	<b>特別支援・障がい児保育</b>	2	低	<p>個別の配慮が必要な子どもの特性を理解するよう努めていますが、現場での具体的な関わり方については、専門知識の習得や巡回指導の活用などを通じ、よりきめ細やかな体制づくりを目指します。</p>
3 - 1	障害のある子どもの特性に合わせた個別配慮を立案し、個別の配慮を念頭とした関わりが現場でできている	2	低	
4	<b>保育内容</b>	3	中	<p>基本的な生活習慣の習得や異年齢交流、学習機会の提供など、多角的な保育が展開されています。各クラスで発達に応じた環境設定がなされており、子どもたちが集団生活の中で社会性を育めるよう良好な援助が継続されています。</p>
4 - 1	生活に必要な基本的な習慣や態度が身につくような保育士の関わり、援助が保育内で展開されている	3	中	
4 - 2	各年齢/クラスごとの発育/成長に応じた保育活動・環境づくりをしている 	3	高	
4 - 3	異年齢の交流活動など子ども同士の関わりや集団における社会性の成長を目指した保育が実践できている	3	低	
4 - 4	言葉や数字など将来につながる様々な学習機会を保育内で取り入れ、実践している。	3	低	
5	<b>食育の推進</b>	3	中	<p>調理スタッフや看護師、保護者と密に連携し、食物アレルギーや喫食状況の情報共有が確実に行われています。安全でおいしい給食の提供とともに、食への関心を育む情報発信を継続します。</p>
5 - 1	調理スタッフや管理栄養士、保護者と連携し、個々の食物アレルギー、食事の様子などの情報共有を定期的に行っている	3	中	
6	<b>安全管理</b>	3	高	<p>安全管理マニュアルの整備および、SIDS対策やヒヤリハットの共有が徹底されています。職員一人ひとりが重大事故防止に対する高い意識を持ち、施設全体で安全な保育環境の維持に取り組んでいます。</p>
6 - 1	感染症、事故防止など安全管理に対する施設方針やマニュアルが整備され、職員が理解し、実践している	3	高	
6 - 2	アレルギー児への対応/対策、午睡時のチェック管理、SIDS等について定期的な注意喚起がなされている。また職員が業務にて意識し取り組んでいる	3	高	

6 - 3	施設内で起こった事故およびヒヤリハットを職員全員が共有できる場や方法を設けている	3	中	
7	<b>災害対策</b>	3	高	災害対応マニュアルの周知がなされており、有事の際も迅速に行動できるよう備えができています。今後は、より多様な災害シーンを想定した避難訓練を実施し、実効性を高めてまいります。
7 - 1	園の災害対応マニュアルが周知されており、それに則り対応できるよう備えが来ている	3	高	
8	<b>家庭との連携（在園児）</b>	2.5	中	日々の体調や成長の変化を保護者へ伝える体制は整っています。今後は、保護者がより安心して悩みや心配事を相談できる雰囲気づくりに注力し、地域の潜在的な保育ニーズの把握にも積極的に取り組んでまいります。
8 - 1	子どもの体調や様子について保育内で情報共有が行えている。また保護者への情報共有ができています	3	中	
8 - 2	活動内容を伝えるだけでなく、個々の学びや成長の変化について保護者へ伝えることが来ている	3	低	
8 - 3	保護者が、子育ての悩みや心配事を安心して話せる存在になれるよう心掛け、対応している	2	高	
8 - 4	入園希望者など地域の保育ニーズを把握し、必要に応じ、自治体情報の提供や子育て相談に対応している	2	高	
9	<b>職員の資質向上・フォローについて</b>	2.5	中	上司や同僚からの助言を受け入れやすい環境があり、園の決定事項の理解も進んでいます。今後は、個人の課題解決に向けた具体的なサポートや、リーダー層による知識・技術のさらなる伝承（アウトプット）を強化していきます。
9 - 1	職員が個人の目標/振り返りを通し課題を見つけ、その課題の解決に取り組んでいる	2	中	
9 - 2	リーダーとして園長、管理者、主任等が率先し自身の保育知識・技術を向上させる行動が来ている。また、学んだ知識やスキルを職員へ共有する機会・行動	2	低	
9 - 3	保育現場において上司や同僚から振り返り、助言を安心して受けられる環境・機会を設けている	3	高	
9 - 4	園の決定事項共有事項について、職員が納得できるよう十分に理解を促す配慮が来ている	3	高	

**【総評】**  
**総評**  
2025年度(令和7年度)末の施設自己評価において、当園は特に\*\*「安全管理」「災害対策」「保育内容」\*\*の項目で非常に高い評価を得ており、安心・安全を基盤とした質の高い保育が実践されていることが確認されました。

一方で、\*\*「基本的理念の更なる具現化(主体性の促進)」「就学に向けた一貫性のある指導」「職員個々の課題解決に向けたフォロー体制」\*\*が次年度の重点課題として挙げられます。

今後は、日々の保育の振り返り(PDCAサイクル)をより組織的に機能させ、職員が専門性を高め合える職場環境を構築することで、子どもたちが「自ら考え、意欲を持って活動できる」保育の深化を目指してまいります。